

れふぁれんす

2015. 7. 22

佐沼高校 図書館発行

文責・学校司書 ニノ神

〒987-0511 宮城県登米市迫町佐沼字末広 1

(「れふぁれんす」とは調べたい事柄がわかる資料を提示したり本探しのお手伝いをしたりする図書館サービスです)

平成 27 年度芸術観賞会 *THE WINDS OF GOD*

シアター青春 公演

今年の芸術鑑賞会は演劇。今井雅之氏の原作による「WINDS OF GOD ～雫のかなたへ～」でした。

若手漫才コンビの「兄貴」と「金太」は仕事も少なく、失敗続きで出番をキャンセルされるなど一向に芽が出ない。コンビ解消の危機にある彼らだが、「お笑い名人大賞」を取る夢にかけた青春と友情が二人をつないでいる。

8月の初め、夏の盛り。兄貴と金太は愛車のナナハンならぬ自転車に二人乗りしてナンパに出かけ、交通事故を起こしてしまう。二人が意識を取り戻すと、見知らぬ若者たちから「岸田中尉!」「福元少尉!」と呼びかけられ…。



終演後のバックステージツアーではたくさん質問をして、舞台の道具にも触らせてもらえました。

来年もお楽しみに…

今井氏は幼いころから俳優を目指すものの、家族との話し合いで、高校卒業後は自衛隊に入隊します。厳しい訓練を乗り越えて配属先も決まりますが、やはり演劇への夢を捨てることができず、大学へ進学して俳優として修行する道を選びます。

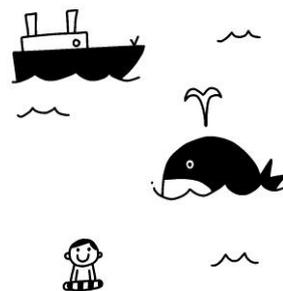
俳優として認められるようになるまでを書いた『若いぼくらにできること 体験的青春論』(岩波ジュニア新書)、『特攻隊と戦後の僕ら「ザ・ウインズ・オブ・ゴット」の軌跡』(岩波ブックレット)などの本を図書館で読むことができます。

来年は古典芸能の鑑賞を予定しています。皆さんのアンケート結果をもとに内容を検討します。

差し上げています。夏のブックガイド!

夏休み前のこの時期には、出版各社や各種団体から、若い人たちに読んでほしい本を紹介した目録が発行されます。部数に限りがあるため、先着順でこれらのブックガイドを差し上げています。

角川文庫は映画「バケモノの子」の表紙で、『図書館戦争』(有川浩原作)や『グラスホッパー』(伊坂幸太郎原作)の映画情報も。文庫を買うともらえるプレゼント情報もありますので、ぜひ確認して下さいね。



夏休みの課題「読書感想文」について

国語の時間に読書感想文のための原稿用紙や応募要項などをもらったことと思います。本校では国語科の協力により、1,2年生は全員、3年生は選択・現代文の受講者に、読書感想文の提出を課題としています。もちろん、それ以外の3年生でも希望者はどんどん応募してくださいね。

「読書感想文を書くために・・・」

- ① 本を選ぶ（とりあえず5冊程度パラパラとながめてみよう）
- ② より深く本を探す（同じ作者の本を複数さがしてみよう）
- ③ 読んで、書く。（読書メモをとる → 組み立て → 書く）
- ④ 見直しをする。（主題から脱線してない？引用が多くない？）
- ⑤ ねりあげ（何日かしてから読み返し、追加訂正してみる）

夏休み中の図書館開館について

夏休みでも通常通りの開館です。（司書不在の場合は図書部で対応）
変更がある場合もありますので、入り口の掲示を確認してください。

夏休み特別貸出

貸出日：7月23日(木)
貸出冊数：無制限
返却日：8月20日(木)

読書感想文用の本も

※☒印が閉館日です。

開館時間 8:30～16:30
(学習室も同じ)

日	月	火	水	木	金	土
				7/23○	24○	25×
26×	27○	28○	29○	30○	31○	8/1×
2×	3○	4○	5○	6○	7×	8×
9×	10○	11×	12○	13×	14○	15×
16×	17×	18×	19×	20○		

館内での飲食はできませんので、ご了承ください。また、館内の美化にもご協力ください。

● 図書館の本から ●

この夏におすすめの本をご紹介します

読書感想文コンクール課題図書

今年の3冊は、戦争を描くモーパッサンの『希望の海へ』（評論社）と、普通の少女マララが女子教育を求める活動を始めることになる過程を描く『マララ教育のために立ち上がり、世界を変えた少女』（岩崎書店）、野生動物の動きから進化に迫る『ペンギンが教えてくれた物理のはなし』（渡辺佑基著 河出書房新社）です。

ノンフィクションのおすすめ

原発事故後のウクライナを丹念に取材した『ルポ チェルノブイリ28年目の子どもたち』（白石草）、仙台出身の著者が現状分析と提言を行う『ブラック企業のない社会へ』（今野晴貴）、地方の医師不足を考える『まちに病院を！』（伊関友伸）は、いずれもブックレットで読みやすい内容と分量でオススメです。

物語・小説のおすすめ

生まれながらに不幸を引き寄せる名人・光太郎の高校生活を描く『僕は小説が書けない』（中村航ほか）、二人の女の子の成長を見つめる『本屋さんのダイアナ』（柚木麻子）、生きる喜びを追い求めるカモメの物語『かもめのジョナサン』（リチャード・バック）。どれも、さわやかで夏らしいおすすめの小説です。